

科目名	薬物治療学特論	選択	1単位
-----	---------	----	-----

◎責任教員

担当教員	◎教授 小佐野 博史 准教授 上園 崇、准教授 宮田 佳樹						
------	----------------------------------	--	--	--	--	--	--

開講年度	2020年度	配当年次	1～4年	配当学期	前期	授業方法	講義
------	--------	------	------	------	----	------	----

授業の概要	高齢者の医療の中心分野である眼科疾患をはじめとする感覚器疾患、精神神経疾患を中心に、病態解明のための基礎研究の方向性と内容、臨床試験の重要性とその実態、ガイドラインが包含する数々の有益な情報とその問題点、そして将来の薬物治療につながる観点を、研究室の研究成果を交えてできるだけ平易に解説します。講義はオムニバス形式で行います。話題性のある医薬品を対象に、最新の薬物治療について理解を深め、適正な薬物治療の設計と遂行に参画できるようになることを目的とします。
-------	--

授業の到達目標	最新の医薬品、薬物治療について関心を深め、病態の基礎研究、適正な薬物治療の設計と遂行に参画できるようになるために、基礎研究、臨床研究、大規模臨床研究の事例をもとに、ガイドライン作成への過程を考え、最新医療の処方解析し、成果を評価することにより、副作用症状の収集、評価とその対策（処置方法とその回避方法）に関する知識を身につける。
---------	--

授業計画	回数	担当者	行動目標
	1	小佐野 博史 教授	薬物治療学特論概論（講義の概要）。薬物治療学分野における研究の多様性と重要性を説明できる。
	2	小佐野 博史 教授	基礎研究と臨床研究の連携（糖尿病の薬物治療を中心に）。糖尿病におけるインスリン療法を例に挙げ、薬物治療の問題点とその解決策を討論する。
	3	小佐野 博史 教授	基礎研究と臨床研究の連携（糖尿病網膜症、白内障の薬物治療を中心に）。生活の質（ADL）を向上させるために、感覚器疾患の薬物治療が果たす役割について説明できる。眼科系疾患における薬物治療の重要性を通して、今後必要とされる基礎研究との連携を予想する。
	4	宮田 佳樹 准教授	眼科系疾患における分子標的薬と眼組織への薬物移行性について説明できる。
	5	宮田 佳樹 准教授	眼科系疾患における薬物治療の可能性について学術論文に基づき説明できる。
	6	上園 崇 准教授	パーキンソン病を例に挙げ、ガイドラインの成り立ちとその問題点について説明できる（1）。
	7	上園 崇 准教授	パーキンソン病を例に挙げ、ガイドラインの成り立ちとその問題点について説明できる（1）。
	8	上園 崇 准教授	認知症疾患を例に挙げ、ガイドラインの成り立ちとその問題点について説明できる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	薬理学、病態学、薬物治療学、医薬品情報学をはじめ、関連領域に関する学部講義の資料などに目を通した上で出席すること。 事前学修：前回の授業内容（プリント等）を復習し、用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業中の疑問点をまとめ、プリント等を利用し、次回の授業までに解決しておくこと。 当該期間に30時間程度の予復習が必要となります。
----------------------	---

教科書	プリント、あるいはパワーポイントで講義を行います。
-----	---------------------------

参考書	講義内にその分野についての原著論文や総説、解説記事の紹介に努めます。
-----	------------------------------------

成績評価の方法および基準	レポート100% 講義1回欠席する毎に5点減点。
--------------	-----------------------------

その他履修上の注意事項	基礎研究と臨床研究の橋渡しを意識して授業を進めます。基礎系の研究に没頭している院生には、特に受講を勧めます。レポート等に対し、講義終了後に個別にフィードバックを行います。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
-------------	---